

森林・林業技術センター内における閉鎖型採種園の整備 (あいち森と緑づくり事業) について

2021年12月21日(火)
あいち森と緑づくり委員会視察
愛知県森林・林業技術センター

1 林木育種としての県の役割

県は林業種苗法及び林業用優良種苗生産需給調整要綱(林野庁長官通知)に基づき、優良な種子・挿し穂の採取に適した林木育種地を造成・指定し、苗木生産者へ優良な種子等を計画的に配布している。(1970年～)

健全な森林の維持及び循環型林業の推進を図るためには、県内の需要に見合う優良な種子等を継続的に生産することが重要である。



林木育種地 位置図

2 新たな苗木需要に対応する閉鎖型採種園の整備

県として、森林所有者等からの新たな苗木需要を踏まえ、交雑による品質低下を防ぐため、外部からの花粉の影響を受けない閉鎖型採種園の整備を2020年度から進めている。

【新たな苗木需要】

- ① 花粉症対策苗木：少花粉スギ・ヒノキ、無花粉スギ、広葉樹(コナラ、ヤマザクラ、センダン等)
- ② 花粉症対策に資する苗木：花粉量が少なく、成長が早い等のエリートツリースギ・ヒノキ

3 今後の苗木生産見込み

単位：千本

区分		2020年度 (現状)	2025年度 (計画)	参考
在来	スギ・ヒノキ	79	-	
	計	79	-	
花粉症対策苗木	無花粉スギ	0	1	
	少花粉ヒノキ	0	16	2020年度 閉鎖型採種園 2棟
	センダン	0	5	
	広葉樹	0	12	
	少花粉スギ	1	16	
	他県産	40	0	
	計	41	50	
花粉症対策に資する苗木	エリートツリー(スギ)		28	2020年度 閉鎖型採種園 1棟
	エリートツリー(ヒノキ)		172	2020年度 閉鎖型採種園 1棟 2022以降 追加整備予定
	計		200	
合計		120	250	

注：現時点の計画量であり、今後の整備状況や採種母樹の生育状況により変更する場合がある。
閉鎖型採種園の種子生産は、2022年度からを予定している。

4 2020年度 あいち森と緑づくり事業による整備内容

区分	事業費
少花粉ヒノキ閉鎖型採種園 2棟	17,461千円

閉鎖型採種園：1棟規模 7.2m×16m、母樹本数 96本/棟

5 閉鎖型採種園の特徴

(1) 効率的な種子生産

同じ系統の採種用母樹をビニールハウスで覆うことで、外部花粉の混入を防ぎ、目的の系統同士を確実に交配させることができるので、少花粉やエリートツリーの効率的な種子生産が可能。

(2) 液体肥料自動供給システムの導入

林業用種子生産として全国初となる液体肥料の自動供給システムを導入している。

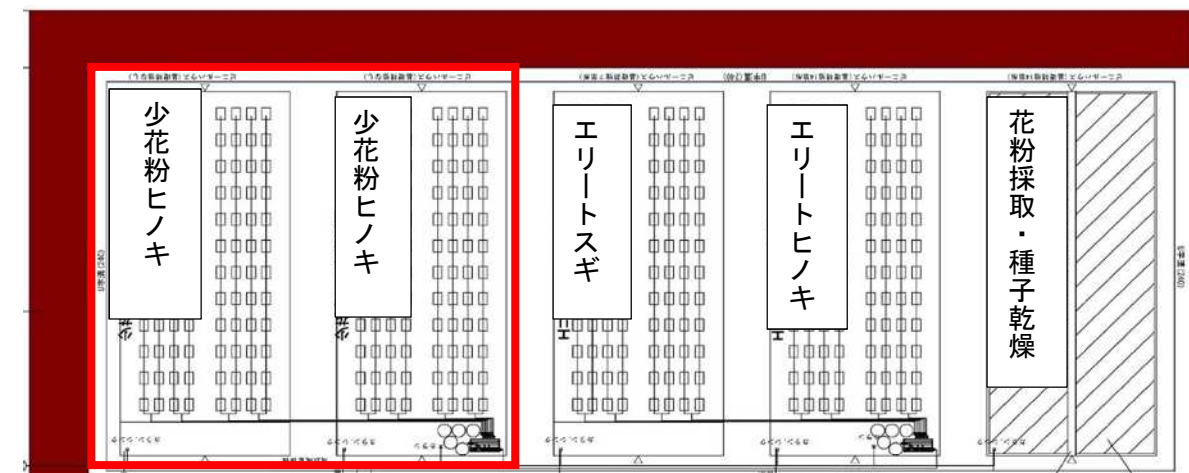
このシステムは、①土壌水分センサーの測定値等をもとに母樹に必要な灌水を自動で行うこと、②母樹の成長や種子の形成に適した液体肥料の供給を自動で行うことで、より効率的な種子生産が可能となる。



閉鎖型採種園



閉鎖型採種園の内部(コンテナによる育成)



閉鎖型採種園 平面図